

吾々ゴルフ部のAクラスはやはりL 能崎、城、峰村、佐藤でせう。何れ近い内に、吾が部の誇るホールインワンに輝くL、多田も仲間入りすることとせう。中堅クラスに独特なスイングのL、浅野が居られます仲の良いL、川井と廻られる姿が一番外から見ても楽しくもあります。

吾がゴルフ部の古参者であるL、大前、小路口は余り賞品に恵まれて居りません、腕よりも口で廻る楽しいゴルフをするメンバーの一人でもあります。なんと申しても、スタイル雑誌に出してもはずかしくないスタイル維持者のL、福富、住友、香川も居られます。

痛風をこらへて廻った努力型のL、江辺の姿も思い出の一つとなることとせう。L、陶器、太田、中辻も愈々始められました。

なんとと言っても出場二回目にして自分と「生きうつし」のカップのトロフィをとられたL、藤木の姿が今でも目の前に出て参ります。

其の他各回毎に楽しい思い出が残る色々ことどもが出来て参ります。

ボウリングに寄せて

L. 中谷 秋 男

ボーリングの時代は過ぎたと云う言葉を耳にするが、それはボーリング場の乱立に依る経営新規開店から出た言葉であると思う。小学生から七十才を過ぎても男女の別なく天候にも左右されず四季を通じて朝、昼、晩、一人でも出来、グループ家族連れもよし亦団体とこれ程広範囲に利用し手軽に出来るスポーツを兼ねたゲームはザラにおまへんで

ガーター=格好悪いと横見たら向うもやつてる。平気平気。よう似たもんや。

ミス=フアイトフアイト次はそれスベアだ。

スベア=適当に足腰鍛えて何才迄も……何を?……

ストライク=快音。ストレス解消バッチリ。

スプリット=まぐれでも取れたら止められぬ。

家族連れ=たまには点数稼ぎも、

団体戦=優勝もつき半分。競馬も大穴?

グループで=ハンデイやってビール頂き、

女性ボーリング=張ち切れる様な投球姿。

勿論魅力的。なんですって、お前はそれ目的に行くのかって。…それもあるがボーリング終わった後のビールが格別。

親善試合も度々有りますので奮って御参加乞う。



堺陵東ライオンズクラブ機関誌

事務局 〒593 堺市上野芝町2丁1039-7 堺市農協
農業会館3階

電話(0722)78-3333(大代表)内線714・715

例会日 毎月第2・第4水曜日午後6時15分～7時30分

例会場 堺商工会議所5階大ホール

結成日 1972年8月26日

チャーター
ナイト 1972年12月9日

会員数 67名



5号

3月13日

今こそ奮起せよ、ライオンズ

会長 L. 藤井太一

昨年末は木枯しが吹き荒み、酷寒に見舞われ、おまけに灯油がない、節電だ、紙がない、砂糖がない、油がない、何がない、かにかがないと。来年はどうなるのだろうと、「身も寒く心も寒い年の暮」でありましたが、一夜明ければ元日から正月の三日間、新春の名にふさわしいうららかな小春日和で、その後もづうっと暖かい日がつづいて、もう立春も過ぎました。「天は人を殺さず」とか、暖房用の灯油も余ってきたようだし、その他ないないと騒がれた品物も値段が上って市場に出廻ってきました。これは全く悪徳商人の便乗値上げの術策にのせられたという感じであります。自分だけよかれと買溜めに狂奔した消費者が我と我が首をしめたかっこうであります。そして儲ける為には社会がどうなろうと、国家がどうなろうと、他人がどんなに困ろうと、手段を選ばない。小は町の小商人から、大は商社大企業家の、エコノミックアニマル根性丸出しの営業姿勢を如実に見せつけられました。目下盛に国会に於て野党から大商社、大企業の買溜め売り惜み、価額協定など、インフレ進行に拍車をかけた裏面事情を暴露追究され、政府も答弁にたじたじの有様であります。はたして日本はこんな姿でいゝのでしょうか。こんな有様がつづけば、やがては大衆は自由主義経済を見放し、社会主義、共産主義の統制経済を求めるようになるのは自然の成りゆきではないでしょうか。かくて政体が社会共産主義に移ったとしたら？日本はいったいどうなるだろうか。個人の自由は？言論の自由は？結社の自由は？ そんなものは糞喰えである。私は1969年の夏、2週間だがソ連を視察した。良い所だけを見せてもらったから深くはわからなかったが、その影にひそむ自由を縛られた人民の暗いものを感じて帰った。そして日本は何もかも自由で明るくて、有難い国だなあとつくづく思ったものだ。その後モスクワ駐在の某新聞記者の妻君の書いた「誰も書かなかったソ連」という本を読んで一層その感を深くした。近頃その本は店頭から影を消したようだが。その間の事情は知らない。一旦失った自由は絶対に再び得がたいと私は断言する。そこには言論の自由もまして行動の自由など爪の垢ほどもないからだ。

社会共産主義国にはライオンズクラブはない。アワー、ネーションズ、セーフティとは、我々の自由の国を護るという意味だ。日本人が、殊に商社や企業家や事業家が今にして猛反省をしなければ、日本人大衆が遠からず自ら自由主義を捨て去ることは灯を見るよりは明らかだ。10万のライオンズは各界の重要な地位にある人等ばかりだ。我々が今日、自ら反省して国家の利益、社会の利益の為には個人の利益は二の次だ、という理念に徹して行動し、この理念の基づく社会道徳を高揚し、いやしくもこれに反する行為者は軽蔑され、社会から葬り去られるというふうな世相にしなければ、良き自由社会は影を消すであろう。アワー、ネーション、セーフティの為に今こそ我々ライオンズが奮起しなければならない時だと、此頃私はしみじみと思っています。

バンコック大会に参加して

L. 米澤康夫

ライオンズクラブの第12回東洋・東南アジア大会は1973年12月7、8、9日の3日間に亘って、タイ国の首都バンコックの市で挙行された。当初我がクラブからかなりの参加が予想されていたが年末のせいもあって結局の処、私と会長L藤井の2人になってしまった。堺からは他に仁徳LCの会長八木と幹事L吉光の2人が参加された。観光目的によって色々のコースがあったが、我々はシンガポール2泊、バンコック3泊、ホンコン1泊のCコースをとった。紙面の都合でシンガポールとホンコンの話は別の機会にゆずって、今回は大会の模様とバンコック市内観光のハイライトを少し紹介しよう。

我々は6日の10時過ぎにバンコック空港に降りた。空港には会長の甥で私にもふたいとこになる伊藤彰彦君が出迎えてくれた。彼は国連のアジア経済復興援助機関であるエカフエに勤め、既にバンコックに2年半滞在していて、英語もタイ語も達者である。大会参加は別として市内観光・特に夜の観光は専ら彼の車で案内してもらった。ホテルは市内で一番大きなルンヒニ公園の近くにあるドシタニホテル24階建ての豪華なホテルで大阪の国際やロイヤルホテルに勝るとも劣らない。部屋に荷物を置いて直に市内の泰白という日本レストランで昼食。久しぶりに食う日本料理の味は又格別。午後はバスで市内観光。といってもたゞバスで市内の目抜き通りを2時間程ぐるぐる廻っただけ。森千代子さんという現地観光協会に勤めているという年増美人？のガイドさんが機関銃のように説明してくれる。深く印象に残ったのは至る処にある極彩色の立派な寺院と何処でも見かける黄色い衣を着た若い僧侶だ、タイは徹底した仏教国で男子が20才以上になれば兵役の義務があると同時に一生一度は必ず出家して3ヶ月以上僧侶の修業を修めなければ1人前の男として通らないのだという。これは国王も逃れることが出来ないかたい掟だ。従って寺院が沢山あり僧侶は尊敬されている。女子はお坊さんに近づいてはいけなし、話しかけることも禁じられている。バスにも後方に特別に僧侶の席が設けられている。我々が大会参加の登録の際頂いた布製の袋は、僧侶が托鉢の時に首からかけるづだ袋をモディファイしたものだ。これは良い記念になった。

次にラチャタムノン通りでは昨年10月に学生がタノム軍事政権に反抗して蜂起し、警官隊と市街戦を演じて多数の死傷者を出し乍ら遂にタノム首相とその一派を国外追放にまで追いやった事件の際、焼き打ちにあった警察庁を始めとする焼けたぐれた諸官庁の建物の残骸がすざましい当時の市街戦の模様を今尚生々しく物語っていた。

市街観光はここそこで2ヶ所も土産物店に立寄り貴重な時間を空費されたのにはいささか憤慨した。夕刻、伊藤君がホテルに迎えに来てくれたので別行動を取って夜の観光に出かけた。古典タイ舞踊のショーを見ながら生粋のタイ料理を喰べさず「アイラク」という店で夕食をとった。靴をぬいで上ると踵まで沈みそうなふかふかしたじゅうたんを敷きつめたホールという

よりは座敷という感じの席でほりこたつ式に足をおろして楽にすわれる独特のテーブルに変わった脇息がついている。次々に運ばれる珍しいタイ料理の数々、舞台では物語りを織りこんだ優雅な古典タイ舞踊、時には激しい戦いの場面等々、たっぷり2時間余りタイの王侯貴族の気分を十二分に味わった。そこ出て更にバンコックの観楽街をあちこち見物しホテルへ帰ったのは真夜中を過ぎていた。翌7日は早朝より水上マーケットの見物に出かけた。バンコックはメナム川をはさんで対岸はトンブリ市という。メナム川は新淀川より尚広い位の川巾で岸辺まで漫々と水を湛えている。タイの人々はこの川を聖なる川としてあがめ、この水で凡てが清められると信じている。この川の本支流の両岸には家を水上に張り出して多数の人が棲んでいる。彼等はこの川の水で飯を炊き、水浴をし、そして又、水洗の便所としている。又、舟を最も便利な交通運輸の機関として運搬や商売を行なっている。川にはり出して店があり玄関がある。毎日早朝5時頃から9時頃までこの水上と岸辺で食料品や日用品の売買が盛に行なわれているのである。これを水上マーケットとってバンコック観光の1つの名物となっている。

我々は午前中にそれをすませた。バンコックの素顔を見たような楽しさであった。いよいよ午後から大会の行事が始った。まずアンボンガーデンの大会堂で昼食会である。ここで始めて参加各国人が一堂に会して昼食をとった。東洋、東南アジア2,000余人が集ったのである。色様々な服装、言葉、夫々どこか異った顔立ちではあるが殆んどが黄色人種であるせいか、又同じライオンズであるという所から非常に親近感があった。ここでバナーやバッジの交換が盛に行なわれた。我々は交換は大会場で行なわれるものと思い込んでいたのでバナーをバスの中において来てしまった。大あわてに取りに帰りそれに時間をとって交換のチャンスを危く失う所であったが、ようやくにおさまりに参加したが既に大半が終っていて持っていった40本の半分も交換出来なかったのが残念であった。食事は中国風料理、終って一同バスで大会議場であるキッチカチャルンスタジアムに向った。バスで小1時間、先年オリンピックアジア大会の行なわれた室内競技場とかで九段の武道館風の建物である。数千人を収容出来る円型風の堂々たるものである。

大会参加者は2061名、その約半数の1012名が日本人、地元のタイは645名、中国(台湾)116名、その他は韓国、ブルネイ、ホンコン、ラオス、マレー、フィリッピン、シンガポール、インドネシア等の国々、オブザーバーとしてインドとパングラデシからも参加があった。2時から開会式、アルファベット順に各国々旗と共に各国々歌の吹奏裡に次々と各国代表の入場があり、ファンファーレの後、型通り開会式が行なわれた。しかし、正直なところ大会場が広いわりあいに参加人員が少いせいもあり運営もあまり上手とはいえず、ライオンズの歌一つ合唱もなくいささか期待に反した物足りなさであった。

大阪万博跡の地区大会、或は京都国際会議場での302W総合地区大会の方がよほど立派な

ものと思った。会場の冷房が十分きかなくて暑いのとあまり面白くないので終りまで待たずに冷房のよくきいたバスに逃げ帰って終了を待った。その夜は首相官邸で首相主催の歓迎晩餐会に出席した。官邸は剣付鉄砲の番兵の立哨するさすが広大な庭園と豪華な建物の堂々たる官邸である。6時からということで我々は時間に遅れずに行ったのであるが、サンヤ首相は重要会議が遅れているとかで1時間以上も待たされた。中には馬鹿にしていると噴飯してさっさと帰った組も幾組かあった。漸く7前半頃遂に首相の出席がないまゝ副首相の出席でバンドの演奏とともに宴会の幕があいた。立食である。洋風、中華風、タイ風、とりまぜた山海の御馳走が山と盛ってあったが腹のすかした千数百のお客さんだから忽ちのうちに平げた。腹がへってライオンズもオッサンも同じである。9時すぎ客もぼつぼつ帰り始めたので我々も退散したホテルへ帰ったのは10時前であった。翌8日は午前中グルブ討論会があり2時からインドラホテルで閉会式があったが、これには出席者は四百名であった。決議としては来年度大会はホンコンで開催することに決定、再来年は台湾で開くことを予定し、又、国際理事を東洋東南アジア地区で更に1名割当てを受け、それを日本から出すことに決定した由あるが、私等も8日は伊藤君の案内でバンコック市内で見残した大理石寺院、旧王宮、エメラルド寺院を見物し更に足を伸してバンコックから90km離れている古い都のアユタヤを観光した。アユタヤは約400年前山田長政が王侯に列し御朱印船の往来とともに多数の日本人が日本人町を作った時代の首都で後ビルマに亡ぼされたのだといわれている。あちこちに壊された煉瓦造りの大寺院の廃墟が往時の盛時を物語っていた。往復の車の窓から見る目を遮るものもない一望千里の水田には稲が房々と実っていた。これを見ただけでもタイへ来た値うちがあったように思えた。

年末家族例会の思い出

第一副会長 L. 木下秋水

S.48年の後半期はインフレと物価高に悩む中に、12月突如として起った石油危機に日本国中は大いに動揺した。この様な社会状勢を忘れるかの様に今年最後の家族例会が東洋一を誇るロイヤルホテルに於て厳粛に催された。先づエレクトーンの伴奏による開会宣言がL、福田一夫により行われ、次いでライオンズヒム合唱、L、藤井会長による挨拶等盛り沢山のプログラムが楽しく進められた。

この企画は早くより計画委員会によって綿密にしかも家族的ムードを如何に発揮するかに苦心が払われた。それは三国ヶ丘中学の難波先生による独唱と、アトラクションとして万才B&B、及び落語家桂きん枝により子供等の喜びは大いに湧いたことである。お陰でアクティビティーに貢献するチャリティ、オークションは稍 時間切れとなり二品位安く手じまいにする嫌

いはあったが。然し本家族例会は当クラブとして家族を含む真の友愛親睦の意義を十分に発揮出来た記念すべき家族例会であったと思います。

終りに本例会をかく効果あらしめたL、陶器委員長をはじめとする計画委員会の各メンバーに深く感謝致します。

アクティビティ

(昭和48年8月~同年12月)

1. 青少年交換基金 66人×30円×6 = 11,880円
2. インド救済協力基金 100円×66 = 6,600円
3. 登美丘との合同1周年記念アクティビティ 20万円 (登美丘10万円、陵東10万円)

内訳

市立百舌養護学校小学部据置トイレ 1万3,500円

〃 中学部電動系鋸機2台 8万6,500円

市立八田荘老人ホーム 藤棚 10万0,000円

4. 献眼PR用ディスプレイ 1人1部200円×63 = 12,600円
 5. 角膜移植の手術用顕微鏡 1人 400円×63 = 25,200円
 6. 堺北交通安全協会 (カーブミラー設置10ヶ所) 300,000円
- 合計 756,280円 (登美丘10万円を含む)

ライオンの現況

	クラブ数	前月末比	会員数	前月末比
E地区合計	1,018	+7	56,264	+313
W地区合計	775	+7	46,121	+309
全日本	1,793	+14	1,002,385	+622

C. W-I地区

クラブ数	117	+2 (前時)		
会員数	8,324	+54 (前時)		
アクティビティ	件数 192件 (努力率仕千件)	金額 17,926,691円		
	平均出席率 98.3%			

クラブの雀士

L. 多田 宏

「麻雀は人生の縮図」とよく言われて居ります。

堺陵東ライオンズクラブの雀士の中にも自称四段から「麻雀は全て運」と言ふ大人も居られます。

然し麻雀程その人の性格そのまま表現される競技(?)も他にはないでせう。

堺陵東ライオンズクラブの中でも同行の士が集まる幾つかのグループが誕生して居ります。どのグループの一組、一組をとってもそのグループの特長が御座居ます。

仕事の骨休みと、頭の休養には、非常に変化に富んだ遊びの一つでも御座居ます。此の骨休みもグループに依ってはL、Y、N、T、Aグループの短期決戦型から

L、O、S、T、J、Y、グループの様な長期決戦型迄御座居ます。又頭の休養の遊びがかへって苦悩に代り、全て解説入りと言った雀士も居られます。年二回のクラブ大会は、これ等グループが一室に集り、和気あいあいとした大会になります。

非常に温和な麻雀を打たれるのはやはりL、Yが一番でせう。

音程の違った「赤トンボ」の歌が出れば、せつかく美しく並んで居る雀も、何処ともなく飛んで行ってしまふ様な気が致します。

なんと言っても強いのは、L、O、N、N、H、であるかも知れません。又麻雀を最高の一つの遊びと楽しんで居られるL、Sの勝率は2割を満たないかも知れませんが、大三元を上ることもあります。この様な全く予測に反した結果が生れるのも麻雀のもつ独得な楽しさであるのかも知れません。

人間には大なり少なりストレスは付きもの。

適当にストレス解消して明日の鋭気を養うことは人生に於いて欠くことが出来ない。人それぞれ性格、年齢、体力、職業等異り時間等の問題もある。趣味として健康的で手軽に楽しみ、ストレス解消に役立つものはなからうか?

ゴルフの人々

L. 山田 修

吾が堺陵東ライオンズクラブ、ゴルフ部が発足して早や六回の大会を経ました。

第一回優勝杯は(L、藤井会長寄贈)部員の中で一番小さくてスマートなL辻野が獲得されました。

吾々メンバーの中で少々の風では倒れない立派な体をして居られる方々がたくさん居られます。ゴルフは体の大小では如何とも致し難い競技の一つであるのかも知れません。又ゴルフは自身と厳しく戦ふ運動競技であることも事実で御座居ます。然し乍ら美しい自然の中を吾々メンバーがパーティを組んで歩く時自然と強い友情と、友情が生れることもゴルフの一つの大きな魅力でせう。